

まげしま  
**馬毛島アセスの軍事的問題**

中川 武夫、Nakagawa Takeo (中京大学名誉教授・愛知支部)

## はじめに

種子島の 10km 北西の馬毛島全域を自衛隊の軍事基地・米軍の FCLP (空母艦載機着陸訓練) にするための環境影響評価手続きが進められている。

2022 年 4 月の準備書\*1で、FCLP は午前 3 時までタッチアンドゴー。年間 28,817 回飛行と日本最大の軍事基地となることが判明した。

また、大規模な港湾施設 (最外側の東沖防波堤は長さ 450m、海底から 31m。北防波堤は燃料栈橋設置の危険な堤防) も分かった。

飛行場支援施設は厚生施設、体育館 (プール付き) などを含む贅沢施設であり、事業計画そのものに大きな問題を含むが、本稿は環境影響評価 (準備書への意見の見解まで) 及びその軍事的意味について、問題点をまとめた。

## 1 手続き上の問題

(1) 準備書への意見の見解 \*2 2022 年 6 月 17 日公表。私どもの意見 192 項目中、50 項目：準備書の繰返し (準備書への意見に答えがない)。49 項目：「適切にアセス手続きをした」。

### (2) 第 2 種事業の手続きをすべき

準備書では、主滑走路は 2.45km と図に追加し、2.5km 未満の第 2 種事業で配慮書不要としている。しかし、環境影響評価法第 4 条第 2 項の鹿児島県知事から配慮書省略の了解を得たか記載がない。

準備書への意見の見解 397 準備書の繰返し

### (3) 縦覧期間、意見書締切の延長を

準備書縦覧中の 5 月 13 日に九州防衛局 WEB に準備書修正 (大気粉じんの追加) \*2があった。4 月 28 日にも改変面積の変更\*2があり、意見書締切の 6 月 2 日を延長すべきであった。

見解 418 環境影響評価法に基づいて進めている。⇒法には定めがない。

### (4) 専門家の助言を無視しないこと

ウミガメ類の専門家から“西側の砂浜の砂がさ

らに減少…係留施設は海水が通過するような構造が良い”と助言されたが、海水が通過しないケーソン構造である。

見解 No.47 一般栈橋や消波堤防は、海水通過が可能な構造。

⇒ 消波堤防は南側の根元だけ。一般栈橋はその奥の北、南、東、東沖防波堤で遮られ意味がない。

## (5) アセス形骸化の整備決定、予算計上

政府は 2022 年度予算に馬毛島の自衛隊基地建設 549 億円の予算を計上した。事業を廃止・縮小できる環境影響評価の途中であり、アセスの形骸化は許されない。

見解 No.462 環境影響評価手続を経た後、円滑かつ速やかに馬毛島内での施設整備に着手できるよう準備を進めてまいります (その条件で入札)。

## 2 事業内容 (事業計画)

### (1) 外周道路は環境影響評価対象とすべき

方法書への意見の見解は“管理用道路…別の事業…環境影響評価の対象としておりません”とあるが、ほとんど事業区域内のため対象とすべき。

見解 No.398 自主的に講じる環境保全措置について防衛省のホームページで公表。⇒ 管理用道路 (外周道路) の工事について \*3 たった 3 頁。

### (2) 仮設栈橋撤去は工事期間延長を

大気排出量が 2 倍近くの仮設栈橋撤去は工事平準化をすべき。見解 No.50 適切アセス

## 3 予測条件・予測式の不備 準備書の再提出を

(1) 大気予測条件 (航空機) : 稼働時間 h、継続時間がない。見解 No.62 適切アセス

(2) 工事車両大気排出係数 : 過少に計算。

見解 No.72 適切アセス

(3) 馬毛島の水中騒音 c1,c2 (水面等価損失)

見解 No.99 準備書の繰返し。

(4) 航空機騒音 (予測手法) : 補正量が全て未記載。(Δ LNF:指向性、Δ Lairspeed:移動速度 など)

見解 No.97 基本的な L<sub>0AE</sub> の読取り方法不明。  
補正量は出典を記載したが内容は示さず。

(5) 海域動物（水中騒音）：予測対象はジェット戦闘機だけ（海面近くの訓練ヘリコプターも）。

見解 No.301 騒音が大きい戦闘機系で予測。

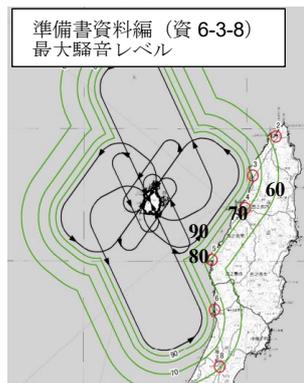
#### 4 予測・評価が不十分 準備書と言えない

(1) 環境基準以下ならいいのか：環境基準のある大気、騒音、水質については、環境基準以下だから問題ないという評価だが、環境基準まで汚してもいいでは環境影響評価の精神に反する。

見解 No.95, 131 適切アセス

(2) 動・植物(陸・海域)等の評価が全く同じ：対象毎に評価すべき。見解 No.170 適切アセス

(3) 最大騒音レベルの予測・評価を：航空機騒音は環境基準の L<sub>den</sub> で予測評価しているが、資料編の最大騒音レベル予測を本篇に入れるべき。予測コンターが正しいなら最大騒音レベルは西海岸で 80dB、種子島西半分は 60dB を超えるため人間への評価をすべき。



防衛省が日出生台

(大分県：ひじょうだい) など全国の演習砲撃音の防音助成に用いている L<sub>cdn</sub>\*4 を航空機騒音評価に採用すべき。見解 No.98 適切アセス

(4) マゲシカは特別な調査を：環境保全措置の仮設柵、餌資源の消失緩和だけでは「絶滅の恐れのある地域個体群…固有亜種マゲシカ」が生き残れない。事業の廃止、縮小を検討すべき。

見解 No.211 個体数、食性、利用環境、餌資源量、DNA 分析調査を実施した。⇒ 環境保全措置につながらない

#### (5) 鳥類の繁殖状況の特別調査を

繁殖する重要な種…シロチドリへの影響が想定されるとあるが、そもそも鳥類の繁殖状況が、現地調査の結果にはない。繁殖場所の特別な調査をして評価すべき。ミサゴも同様である。

見解 No.281 繁殖期を含めた各季調査を実施。

⇒ 繁殖期を含めた調査をしたとは記載していない。

#### (8) 放射性物質の状況の現地調査をすべき

方法書への意見への見解で“我が国の意思に反して核兵器が持ち込まれることはありません。”と核兵器に限定しているが、原子力艦船の寄港もあり、放射性物質の現地調査をすべき。

見解 408 原子力艦船の寄港や核廃棄物の搬出入は想定されていません。

⇒ そんなことが確約できるのか。

温室効果ガスの評価は定量的に：見解の“工事期間中総排出量は約 345 千トン、運用時は約 52.4 千トン/年”を本篇に入れるべき。

見解 No.371 準備書の繰返し

#### 5 馬毛島アセスの軍事的意味

手続きを無視して(①見解は準備書の繰返し、②配慮書不要の知事意見なし、③アセス手続き中に変更、③専門家助言無視、④アセス手続き中に予算化)、本来であれば準備書の再提出が必要なほど予測方法に不備があり、とても準備書とは言えない内容で、通常的环境影響評価以上に強引に手続きを進め、工事入札さえ 2022 年 1 月の施設整備、3 月の仮設プラント製作・設置、4 月の燃料貯蔵施設整備、管制塔等新設工事、5 月の敷地造成等工事、6 月の駐機場舗装等工事など\*2「工事は、環境影響評価書の公告後に…馬毛島の島内において実施。」として、アセス手続きも終了しないまま強行している。

また、アセス対象でないと主張し、外周道路、大規模な港湾施設と燃料棧橋設置まで含み、全国でも最大の軍事基地にする計画が進められ、現時点では、馬毛島全域を自衛隊の軍事基地・米軍の FCLP (空母艦載機着陸訓練) にするというだけだが、将来的には米軍との共同訓練など大規模化することが想定され、原子力艦船の寄港や核廃棄物の搬出入まで考えられる。特に沖縄の辺野古飛行場の完成見込みがないため、その代替の軍事空港として使う意図が透けて見えてくる。

#### 引用文献

- \* 1 馬毛島基地 (仮称) 建設事業に係る環境影響評価準備書
- \* 2 九州防衛局 WEB 新着情報 2022.5.13(大気追加)、4.28 (改変面積変更等)、6.17 (準備書意見への見解)、9.5 入札結果
- \* 3 防衛省 WEB 2022.4.19 管理用道路 (外周道路) の工事
- \* 4 九州防衛局 WEB 演習場周辺住宅防音工事標準仕方書